

## 北陸大学初年次教育における「講義 Tree」作成プログラムの実践

○畑 友佳子<sup>1</sup>, 木藤 聡一<sup>1</sup>, 武本 眞清<sup>1</sup>, 倉島 由紀子<sup>1</sup>, 池田 ゆかり<sup>1</sup>, 山田 豊<sup>1</sup>,  
池田 啓一<sup>1</sup>, 内手 昇<sup>1</sup>, 中越 元子<sup>1</sup> (北陸大薬)

【目的】北陸大学では、自ら学ぶ薬学生として成長するための基盤的教育として初年次教育「SEED」プログラムを展開し、前期「薬学入門Ⅰ」と後期「基礎ゼミⅠ」でアクティブラーニング型教育を実践している。後期授業の開始にあたり、薬学部での学びを学生自身が考えることで今後の学習に役立てるため、講義 Tree を作成した。これは、薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく科目間のつながりや発展性をシラバスで改めて確認し、薬剤師に求められる基本的な資質（10の資質）にどのようにつながっていくのかを可視化するプログラムである。本報告では、このプログラムの内容と学生の活動の様子を紹介する。

【方法】授業に先立ち、薬学教育モデル・コアカリキュラムや10の資質、シラバスの役割や学習目標、到達目標について講義形式で再確認した。本学1~3年次までに履修する科目（必修科目のみ、語学は除く）60科目について、各自がシラバスを読んだ後、スモールグループディスカッション(SGD)を行い、科目間のつながりや発展性および10の資質との関連を模造紙上に表現した。その後、各自が発表原稿を作成、チームごとに全員が発表し、ピアレビューを行った。

【結果・考察】各チームは、前期「薬学入門Ⅰ」で学んだ様々な手法を使って各々独自の講義 Tree を完成させることができた。ピアレビューに書かれたコメントから、多くの学生が科目間のつながりや必要性、発展性が明確になり、目標や見通しを持って学習に取り組むことができると感じていることが読み取れた。同様に、今の学びが10の資質に結びついており、どれも重要であるということが理解されたようであった。このように、本学「SEED」では、学生の学習に対する意識を高め変容を促す数々の工夫をしており、本報告はその一例である。